

授業展開案 高等学校地理歴史「日本史 A」

1 テーマ

ペリー艦隊の航路

2 I C T 利活用のねらい

ペリー艦隊の航路について、I C T 機器を用いて諸資料を表示しながら生徒に考察させることで、生徒の興味・関心を喚起し、さらに歴史的思考力を高めさせる。また、考察を通じて、当時の世界の地理的条件や世界情勢についての理解を深めさせ、日本の置かれた状況を世界史的視点から把握させる。

3 利活用する I C T 機器及びソフトウェア

①機器：電子黒板、学習者用端末

②教材：「ペリー艦隊の航路」(Microsoft PowerPoint)
「白地図」(Microsoft Word)

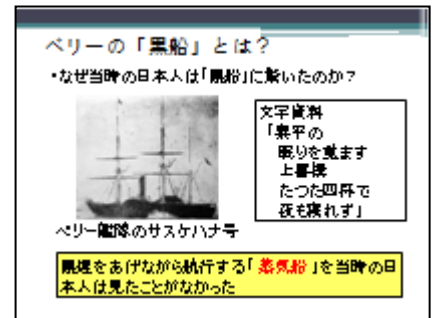
4 I C T 利活用の場面

学習内容	I C T 利活用の場面
ペリー艦隊に蒸気船が含まれていたことを確認する。	①説明の補助：黒船についての文字史料・図版・説明を表示する。
ペリー艦隊の航路について確認し、最短距離である太平洋を横断せずに来日したことを理解する。	②表現活動：学習者用端末に航路を描画させ、生徒の解答を電子黒板に表示する。その後スライドで実際の航路を確認する。
ペリー艦隊が太平洋を經由しなかった背景について予想を立て、その予想について年表に記載された出来事から考察する。	③表現活動：学習者用端末に予想や考察を記述させ、電子黒板で生徒の考察を表示する。
アメリカの状況(イギリス等と比較して)について確認し、幕末の日本の置かれた世界史的な情勢について理解する。	④説明の補助：「イギリスの植民地」のアニメーション及び「アメリカの領土拡大」に関するスライドを表示する。

5 ICT 利活用のポイント

①説明の補助

ペリーの黒船がどのような船だったかを、それまで日本に来航した外国船と比較しながら考察させ、「蒸気船」であることを確認する。



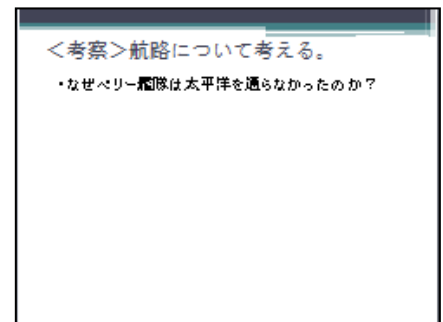
②表現活動

学習者用端末に白地図を配布し、ペリー艦隊の航路を想像で記入させる。その後、生徒の解答を電子黒板に表示し、他の生徒の解答にも触れさせる。最後に実際の航路を確認し、太平洋を通らないルートだったことを確認する。また、世界史と関連させて、ペリー艦隊がヨーロッパ列強の植民地に寄港しながら来日したことや、イギリスの植民地やスエズ運河が未開通だった(1869年開通)こと等についても触れることで、多角的・多面的に当時の世界情勢を確認する契機にもなる。



③表現活動

学習者用端末になぜ「太平洋を横断しない航路だったのか」という問いを表示し、考察させる。生徒の考察も電子黒板に表示し、他の生徒の考察にも触れる。教師と共に内容を検討し、「石炭燃料の確保」「太平洋における補給地の少なさ」等という結論にたどりつくことで、当時の世界情勢について関心をもたせる契機にする。



④説明の補助

19世紀のアメリカの領土拡大と世界におけるアメリカの立場について説明する。その際、領土拡大のスライドとペリーが辿った航路に、イギリスの植民地が多かったことに触れながら説明することで、当時の世界の覇権を握っていたのはイギリスであったことや、アメリカが太平洋やアジアに進出しようとしていた欧米諸国の中では後発国であることを意識させる。

